反田恭平さん応援レポート
第27回出光音楽賞
受賞者ガラコンサート
2017年８月23日（水）
東京オペラシティ　コンサートホール

第27回出光音楽賞受賞を記念して

1990年に創設された『出光音楽賞』。出光興産株式会社主催、テレビ朝日後援の音楽賞であり、主にクラシックの音楽活動を対象に、育成という観点から意欲、素質、将来性などに重きを置いて新進の音楽家を顕彰している。今回を含め97名と1団体が賞の栄誉に輝いており、それぞれの場でめざましい活躍を続けている。過去の受賞者には、財団奨学生OBや現役生の名前も並ぶ。山根一仁さん（ヴァイオリン・2016年）、周防亮介さん（ヴァイオリン・2015年）、黒川 侑さん（ヴァイオリン・2013年）、宮田大さん（チェロ・2010年）、田村響さん（ピアノ・2006年）、佐藤俊介さん（ヴァイオリン・2005年）、中野翔太さん（ピアノ・2005年）・・・。

今回第27回の受賞者は、反田さんと荒木奏美さん（オーボエ）、小林沙羅さん（ソプラノ）の3名。それぞれの受賞理由が公表されており、反田さんの受賞理由は「ダイナミックかつ個性的な演奏で、人々を惹きつける魅力に溢れている。今後も最先端での活躍が期待されるピアニストである」とされている。

会場は東京オペラシティコンサートホール・タケミツ メモリアル。今年、開場20周年を迎えたホールは、現代の最新音響技術を用いて設計されたコンサート専用ホール。「ホール自身が巨大な楽器となり、引き締まった低音とメローで艶のある音色を奏でる」と、響きの良さに定評がある。

タクトを振るのは沼尻竜典氏。第１回出光音楽賞の受賞者でもある。管弦楽は日本フィルハーモニー交響楽団のみなさん。司会は選考委員のお一人でもあられる作曲家の池辺晋一郎氏と、テレビ朝日アナウンサーの松尾由美子氏。授賞式ということもあり、ホワイエにはいくつもの花が並び、会場の雰囲気も華やいでいる。

『ドレミファソラシド、どの音にも華がある』

授賞式が始まる。池辺氏より、出光音楽賞の特徴が語られる。「・・・昨年1年間の活動や実績に基づいて選考しています。単発ではなく継続的な活動を重視しています」「・・・出光ですからね、油の乗っている方、光が出ている方」との毎年恒例（らしいです）のジョークも。続いて3名の選考理由。反田さんには「・・・圧倒的なテクニック。しかも技量だけでなく表現力があり、メカニックさに音楽性が加わって素晴らしい音楽を奏でる方です。若くして表現力と説得力のある音楽をされる方だと思います。ますます高みへと昇られることを期待しています」との言葉が贈られた。

ガラコンサートの始まりはオーボエの荒木奏美さん。東京交響楽団の首席オーボエを務める荒木さん、9歳の時から始めたというオーボエを自身で作曲したカデンツァも含め、華麗に奏でてくれた。

休憩を挟んでソプラノの小林沙羅さん。『「純度」の高い方です』と池辺先生。曲想の異なる3曲を澄んだ歌声で聴かせてくれた。堂に入ったダンスも魅力的。

授賞式での3人

プログラムラストは反田さん。「・・・本当にうれしかったです。・・・『題名のない音楽会』は小さい頃から観ていた番組でした。12歳のとき、『振ってみまSHOW!』という、オーケストラと一緒に指揮を振らせてもらえる企画に参加させてもらったことがあります」・・・人気企画の第一回に出演。それが、指揮に興味を抱き、真剣にピアノを始めるきっかけとなったそうなのだから、ご縁も深い。

本日の演奏はラフマニノフの「パガニーニの主題による狂詩曲」。「・・・この曲はロシアでデビューしたときの曲、自分にとって大変思い出深い曲です」。サンクトペテルブルクのマリインスキー劇場でのコンツェルト公演だったそうだ。

司会の池辺氏からは、「・・・反田さんの音が素晴らしいのは、ドレミファソラシド、どの音にも華があるんです。音楽から花が咲くような、そういうピアニストです。花を咲かせるように音を奏でることに、専念していってほしいです」とのご紹介。

演奏家であり作曲家であり、教育者でもあったというラフマニノフ。「本来の音楽家の姿だと思います。目標としたいです」と反田さん。超絶技巧が散りばめられた曲をテクニックも抜群に、熱く弾き終えると、会場の皆様から、こちらも熱い拍手が贈られた。

左：小林沙羅さん（ソプラノ）、
右：荒木奏美さん（オーボエ）
写真ご提供：株式会社テレビ朝日
（このページのもの全て）

『将来の夢に向けて第一歩を踏み出します』

レセプションにて。

左から、
反田さん、
小林沙羅さん、
荒木奏美さん

終演後には会場をバンケットルームに移し、レセプションが行われた。
受賞者による挨拶では、「・・・実はナーバスな性格なので、今日は緊張していました」とシャイな一面も披露。
「・・・９月からは欧州に留学して勉強し直す予定です。音楽家として、ピアニストとして、将来の夢に向けて第一歩を踏み出します」と抱負を聞かせてくれた。

なお、当日のコンサートの模様は、
「題名のない音楽会」で下記の予定で
放映される；
2017年９月17日（日）9:00～9:30テレビ朝日
2017年９月23日（日）23:00～23:30　BS朝日

反田さん、おめでとうございました。
また聴かせてください！

≪演奏会概要≫

◆出演
荒木奏美（オーボエ）
小林沙羅（ソプラノ）
反田恭平（ピアノ）
沼尻竜典（指揮）
日本フィルハーモニー交響楽団（管弦楽）

司会：
池辺晋一郎
松尾由美子（テレビ朝日アナウンサー）

◆プログラム
荒木奏美（オーボエ）
　モーツァルト：オーボエ協奏曲
　　ハ長調　K.314
小林沙羅（ソプラノ）
　グノー：オペラ「ファウスト」より“宝石の歌”
　レハール：オペレッタ「ジュディッタ」より
　　“私の唇は熱いキスをする”
　グリーグ：劇音楽「ペール・ギュント」より
　　“ソルヴェイグの歌”
反田恭平(ピアノ)
　ラフマニノフ：
　　パガニーニの主題による狂詩曲より

【コンサート・プログラム】

第27回
出光音楽賞
受賞者ガラコンサート
2017年8月23日(水)
開演18:45(開場17:45)
東京オペラシティコンサートホール
主催：出光音楽賞実行委員会

【コンサート・プログラム（P.1～4）】

出光音楽賞

「出光音楽賞」は出光興産株式会社主催の音楽賞（1990年創設／テレビ朝日後援）で，主にクラシックの音楽活動を対象に，育成という観点から意欲，素質，将来性などに重きを置き，新進の音楽家を顕彰してまいりました。
今回の受賞者を含め97名，1団体が「出光音楽賞」を受賞し，それぞれの場でめざましい活躍を続けております。

第27回出光音楽賞受賞者
（五十音順）

荒木　奏美
〔オーボエ〕

小林　沙羅
〔ソプラノ〕

反田　恭平
〔ピアノ〕

第27回出光音楽賞選考委員
（五十音順）

秋山　和慶
〔指揮〕

池辺晋一郎
〔作曲〕

石田　一志
〔音楽評論〕

海野　義雄
〔ヴァイオリン〕

木村かをり
〔ピアノ〕

木村　俊光
〔声楽〕

主　催
出光興産株式会社

後　援
テレビ朝日

運営主体
出光音楽賞実行委員会

Program
プログラム

「第27回出光音楽賞」授賞式

荒木　奏美
（オーボエ）
Kanami Araki
モーツァルト：オーボエ協奏曲 ハ長調 K.314

休憩

小林　沙羅
（ソプラノ）
Sara Kobayashi
グノー：オペラ「ファウスト」より“宝石の歌”
レハール：オペレッタ「ジュディッタ」より“私の唇は熱いキスをする”
グリーグ：劇音楽「ペール・ギュント」より“ソルヴェイグの歌”

反田　恭平
（ピアノ）
Kyohei Sorita
ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 より

※演奏曲目，曲順は変更になる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

指揮：沼尻 竜典（第1回出光音楽賞受賞）
Ryusuke Numajiri
管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra
司会：池辺 晋一郎・松尾 由美子（テレビ朝日アナウンサー）
Shinichiro Ikebe / Yumiko Matsuo

本日のコンサートの模様は「題名のない音楽会」で放映される予定です。
2017年　9月17日（日）9:00～ 9:30　テレビ朝日
9月24日（日）23:00～23:30　BS朝日

受賞者・出演者プロフィール

荒木 奏美（オーボエ） Kanami Araki

1993年茨城県出身。9歳よりオーボエを始める。
東京藝術大学を首席で卒業後，同大学院修士課程で研鑽を続けながら，4年次在学中の2015年6月より東京交響楽団の首席オーボエ奏者を務めている。
2015年，第11回国際オーボエコンクール・軽井沢において アジア勢 において初の第1位(大賞賞)。併せて軽井沢町長賞（軽井沢賞）を受賞。
その他，第17回日本クラシック音楽コンクール木管楽器部門グランプリ。第31回日本管打楽器コンクールオーボエ部門第2位など入賞を重ねてきた。
2016年には東京・春・音楽祭2016にてデビュー リサイタルを開催。その他，アクト・ニューアーティストシリーズ，ボストンで行われるRidoemer Concert Series等，国内外でリサイタルを行っている。
2016年，木管音楽祭，武生国際音楽祭出演。
2017年，東京オペラシティリサイタルシリーズB→C 出演。
ソリストとして東京交響楽団，川崎賀太郎指揮/東京都交響楽団，梅田俊明，高関健指揮/藝大フィルハーモニア，鈴木優人指揮/九大フィル・ハーモニアと協演。
NHK-FM「リサイタルノヴァ」出演。
今年6月には東京交響楽団での共演もきっかけとなり，ハインツ・ホリガーとオーボエ・トリオで共演。
これまでにオーボエを坂本真紀，成田憲子，和久井仁，小俣雅昭，青山聖樹の各氏に師事。
室内楽を高木綾子，山本正治，日高剛，伊野波介の各氏に師事。

©NIPPON COLUMBIA

小林 沙羅（ソプラノ） Sara Kobayashi

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。2010年度野村財団奨学生。2011年度文化庁新進芸術家在外研修員。2014年度ロームミュージックファンデーション奨学生。ウィーン及びローマにて研鑽を積む。日本声楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。
2006年「パスティアンとパスティエンヌ」パスティエンヌでデビュー。東京芸術劇場シアターオペラシリーズ2007年「トーランドット」リュー，日生劇場2009，2013年「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル，兵庫県立芸術文化センター2011年「こうもり」アデーレ，2014年新国立劇場「パルジファル」花の乙女等，多くのオペラに出演。
2012年ソフィア国立歌劇場「ジャンニ・スキッキ」ラウレッタで欧州デビュー，同歌劇場「愛の妙薬」プレミエ公演アディーナ役が新聞批評で絶賛される。
2015年には野田恵樹演出，井上道義指揮「フィガロの結婚」10都市14公演全てでスザンナ役を務め，その歌唱と演技力が話題となる。2017年2月「カルメン」ミカエラで藤原歌劇団デビュー。秋には三枝成彰新作「狂おしき真夏の一日」エミコ，「ポッペアの戴冠」アモーレ役に出演予定。
フォーレ「レクイエム」，ヘンデル「メサイヤ」，ハイドン「四季」等，ソリストとして多くのオーケストラと共演。2016年山田和樹指揮日本フィルマーラーチクル「交響曲第4番」ではその録音がCD発売された。
バロックから現代音楽まで幅広いパートリーを持ち，常に新しいことにチャレンジする姿勢を大切にする。芸大時代の仲間から成る音楽集団「VOICE SPACE」ではメインヴォーカルを務め，詩人の谷川俊太郎氏や佐々木幹郎氏と共演。日本語の歌唱，朗読，新曲演奏にも力を入れている。2014年デビューアルバム「花のしらべ」，2016年「この世でいちばん優しい歌」をリリース。
オフィシャル・ホームページ　http://sarakobayashi.com/

©Andrea Morachiello

反田 恭平（ピアノ） Kyohei Sorita

2012年 高校在学中に，第81回日本音楽コンクール第1位入賞。併せて聴衆賞を受賞。
2013年 Mヴェスクレーセンスキー氏の推薦によりロシアへ留学。2014年チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院に首席で入学。
イタリアで行われている「チッタ・ディ・カントゥ国際ピアノ協奏曲コンクール」古典派部門で優勝。
7月にはデビューアルバム「リスト」を日本コロムビアより発売。
またCDのデビュー以前に東京フィルハーモニー交響楽団定期への異例の大抜擢を受け，ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 を熱演し，満員の会場で大きな反響を呼んだ。
そして，年末には「ロシア国際音楽祭」にてコンチェルト及びリサイタルにてマリインスキー劇場デビューを果たす。
2016年のデビュー・リサイタルは，サントリーホール2000席が完売し，圧倒的な演奏で観客を惹きつけた。また8月の3夜連続コンサートをすべて違うプログラムで行い，各日のコンサートの前半部分をライヴ録音し，その日のうちに持ち帰るという5CD付プログラムも話題になる。3日間の追加公演も行い，新人ながら3,000人を超える動員を実現する。
2017年4月には佐渡裕指揮，東京シティフィル特別演奏会の全国12公演のソリストを務め全公演完売の中，各地でセンセーションを巻き起こす。
6月にはNHK交響楽団との現代曲への挑戦し，7月からは初のリサイタル・ツアー中で9月まで続く予定。
コンサートのみならず「題名のない音楽会」「情熱大陸」等メディアでも多数取り上げられるなど，今，もっとも勢いのあるピアニストとして注目されている。
CD：「リスト」，「ラフマニノフ：ピアノ協奏曲&パガニーニの主題による狂詩曲」，「月の光」
2017年 CDショップ大賞「クラシック賞」受賞。
オフィシャルHP　http://soritakyohei.com/

Profile

沼尻 竜典（指揮） Ryusuke Numajiri

リューベック歌劇場音楽総監督，びわ湖ホール芸術監督，トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督。
ブザンソン国際指揮者コンクール優勝以来，ロンドン響，モントリオール響，ベルリン・ドイツ響，フランス放送フィル，シドニー響等欧米各国のオーケストラに客演。国内においてもN響を指揮してのデビュー以来多くのオーケストラにおいて首席客演指揮者を歴任。オペラ指揮者としてもケルン，ミュンヘン，ベルリン，シドニー，新国立劇場，びわ湖ホール等にて数々の演目を指揮，成功に導いている。2011年夏にはサイトウ・キネン・オーケストラへデビュー。2014年1月にはオペラ（竹取物語）を作曲・世界初演，今後も国内外で再演が予定されている。
91年第1回「出光音楽賞」，99年第7回渡邊暁雄音楽基金音楽賞，01年第51回芸術選奨文部科学大臣新人賞，04年第3回齋藤秀雄メモリアル基金賞，05年第46回毎日芸術賞，第23回中島健蔵音楽賞，2011年文化庁芸術祭優秀賞，第61回芸術選奨文部科学大臣賞をそれぞれ受賞。2017年春には旭日小綬章を受章。

日本フィルハーモニー交響楽団 Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月22日創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務めました。2016年に創立60周年を迎えた日本フィルは、この歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、「オーケストラ・コンサート」、「エデュケーション・プログラム」、「リージョナル・アクティビティ（地域活動）」という三つの柱で活動を行っています。

I. オーケストラ・コンサート
東京・横浜・さいたま・相模大野で定期演奏会を開催し、年間公演数は例年150回前後。2016年9月に首席指揮者にフィンランドの気鋭ピエタリ・インキネンを迎え、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹、そしてミュージック・パートナー西本智実という充実した指揮者陣を中心に、個性的で魅力的な企画を提供し、さらなる演奏力の向上を目指しています。

II. エデュケーション・プログラム
1975年より始まった親子コンサートの草分けである「夏休みコンサート」や、コミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサーとともに、16年間にわたり行ってきた創作・体験的ワークショップは、日本のオーケストラにおける先駆的な取り組みであり、今後とも先進性を活かして広く発信して参ります。

III. リージョナル・アクティビティ
九州全域で行う九州公演は1975年より、その歴史を刻んでいます。1994年より東京都杉並区と友好提携を結び、「杉並公会堂シリーズ」や「60歳からの楽器教室」など地域に密着した活動を展開しています。
2011年4月より、聴衆からの募金をもとにボランティア活動「被災地に音楽を」を開始。2017年3月までこの公演数は215回を数えております。

【コンサート・プログラム　P.5～8】

プログラム・ノート　Program Notes

[荒木奏美]

モーツァルト：オーボエ協奏曲 ハ長調 K.314

作曲は1777年。後にウィーンで時代の寵児となるヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～1791）であるが、21歳を迎えたこの年、モーツァルトの職務はいまだ故郷ザルツブルクの宮廷楽団における宮廷音楽家だった。幼少時より欧州各地の大都市を旅して見聞を広めてきたモーツァルトにとって、ザルツブルクが自らの才能に見合った土地と思えなかったとしても不思議はない。モーツァルトは手紙で、宮廷楽団のメンバーを「粗野でだらしない」「よけいな連中でいっぱい」と批判し、「ザルツブルクでの暮らしにはもうがまんができない」と嘆いている。雇い主である大司教コロレドとの軋轢も絶えることがなかった。

しかし、一方でこのザルツブルク時代に数多くの傑作が生まれていることもまちがいない。このオーボエ協奏曲ハ長調もそんな青春期のみずみずしさにあふれた名作である。ザルツブルク宮廷楽団のオーボエ奏者、ジュゼッペ・フェルレンディスのために作曲された。

この年の9月、モーツァルトは大司教コロレドへ辞職願を出し、母親とともにマンハイムへと旅立つ。目的は新たな就職口を見つけること。当時のマンハイムにはヨーロッパ随一ともいわれる宮廷楽団があり、豊かな音楽文化が花開いていた。モーツァルトはマンハイムの音楽家たちと交友を深め、音楽家として大きな刺激を受けることになる。そのひとり、オーボエ奏者のフリードリヒ・ラムは、このオーボエ協奏曲の楽譜を贈られて「狂わんばかりに喜んだ」という。この地での就職活動が報われることはなかったが、ラムが奏でるオーボエ協奏曲は大評判を呼び、くりかえし演奏されることになった。

なお、この曲は後にフルート協奏曲第2番ニ長調に編曲されている。

第1楽章　アレグロ・アペルト　快活で喜びにあふれた楽想がくりひろげられる。
第2楽章　アダージョ・ノン・トロッポ　憧憬に満ちた緩徐楽章。独奏オーボエが陰影豊かな旋律を紡ぎ出す。
第3楽章　アレグレット　ユーモラスで軽快なロンド。

[小林沙羅]

グノー：オペラ「ファウスト」より“宝石の歌”

レハール：オペレッタ「ジュディッタ」より“私の唇は熱いキスをする”

グリーグ：劇音楽「ペール・ギュント」より“ソルヴェイグの歌”

フランスの作曲家シャルル＝フランソワ・グノー（1818～1893）は、1859年にテアトル＝リリック座で初演された歌劇「ファウスト」によって、オペラ作曲家としての名声を獲得した。ゲーテの戯曲にもとづいた歌劇「ファウスト」では、悪魔との契約によって青年にもどったファウスト博士とマルグリートとの悲劇的な愛の物語が描かれる。このオペラで歌われる有名なアリアが「宝石の歌」。若い娘マルグリートが家の戸口に置かれてあった宝石箱を見つけ、誘惑に打ち勝てずに耳飾りやネックレスを身につける。鏡に映った姿を見て、その美しさに陶然として「ああ、もうこれはわたしではない。王さまの娘だ」と歌う。

フランツ・レハール（1870～1948）はハンガリー生まれのオーストリアの作曲家。「メリー・ウィドウ」をはじめとするオペレッタの成功で知られる。1934年にウィーン国立歌劇場で初演された「ジュディッタ」は、レハール最後の作品。当時、120ものラジオ局がその上演を中継したという。美貌のヒロイン、ジュディッタが夫を捨てて、軍人のオクタヴィオと駆け落ちをするが、オクタヴィオは軍の命令でジュディッタを残して進軍する。ジュディッタはナイト・クラブで歌手となって、なぜ男たちは私を見るだけで虜になるのかと、挑発するように「私の唇は熱いキスをする」を歌う。

ノルウェーを代表する作曲家エドヴァルド・グリーグ（1843～1907）は、文豪イプセンの戯曲のために劇音楽「ペール・ギュント」を作曲した。劇中では奔放な主人公ペールの奇想天外な冒険が描かれる。他人の結婚式に突然乗りこんで花嫁を強奪するかと思えば、山の魔王の娘をたぶらかして魔王を怒らせたり、道に外れた商売で一財産を築いたかと思えば、そのすべてを失うといった具合に、ペールは波瀾万丈の生涯を送る。そのペールに純真の愛を捧げるのがソルヴェイグ。「ソルヴェイグの歌」では、過ぎゆく時を振り返りながらペールへの思いが歌われる。ノスタルジーを喚起させる抒情的な旋律は人気が高く、管弦楽曲としてもしばしば演奏されるほか、ポピュラー音楽におけるカバー例も数多い。

[反田恭平]

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 より

セルゲイ・ラフマニノフ（1873～1943）はロシア出身の作曲家、ピアニスト。零落した貴族の家系に生まれ、早くからピアノ協奏曲第2番他の傑作で成功を収めたが、ロシア革命の混乱により祖国を離れ、1918年からアメリカに移り住むことになった。すべての財産をロシアに残してきたラフマニノフは、主に経済的な理由からピアニストとして活動し、その高度な技巧とスケールの大きな演奏スタイルによって、歴史的大ピアニストとして名を残すこととなった。

演奏活動が多忙を極めたこともあり、アメリカ移住後のラフマニノフが完成した楽曲は25年間でわずか6曲のみ。その貴重な一曲が1934年に書かれた「パガニーニの主題による狂詩曲」である。スイスのルツェルンにある別荘で夏の休暇を過ごした際に作曲された。

「パガニーニの主題」とは、19世紀の名ヴァイオリニストであったニコロ・パガニーニの代表作「24のカプリース（奇想曲）」からの第24曲を指す。この主題はラフマニノフのほかにも、リストやブラームスら多くの作曲家が変奏曲の主題として用いている。パガニーニの伝説的な超絶技巧を連想させる名技性のシンボルとでもいえるだろう。狂詩曲と題されているものの、このラフマニノフ作品も変奏曲になっており、パガニーニの主題と24の短い変奏から構成される（本日は一部の変奏を省略）。通常の変奏曲と異なり、序奏と第1変奏が演奏された後で、主題が登場し、これに第2変奏以降が連なる。全曲中、とりわけよく知られるのは第18変奏アンダンテ・カンタービレ。甘美な旋律はBGMなどでもよく使用される。

「パガニーニの主題」に加えて、この曲でもうひとつ重要な役割を果たしているのは、中盤以降で姿を見せるグレゴリオ聖歌由来の「怒りの日」の主題である。この主題はベルリオーズやサン＝サーンスらの作曲家が死や悪魔のシンボルとして用いてきたものであり、またラフマニノフ自身も交響的舞曲他の自作でくりかえし使用している。パガニーニの主題と「怒りの日」の主題の組み合わせが、人間離れした技巧によって「悪魔と取引きをした」とまで噂されたパガニーニの人物像を浮かび上がらせる。

（曲目解説：飯尾 洋一）

出光音楽賞歴代受賞者（五十音順）　Winners

第1回 1991	伊東　乾（作曲） 豊嶋泰嗣（ヴァイオリン）	柿沼　唯（作曲） 沼尻竜典（指揮）	勝部　太（バリトン）
第2回 1992	坂井千春（ピアノ） 原田　節（オンドマルトノ）	佐渡　裕（指揮） 向山佳絵子（チェロ）	夏田昌和（作曲）
第3回 1993	小野隆浩（音響デザイン） 吉村七重（二十絃箏）	廣谷紀郎（作曲） 若林　顕（ピアノ）	竹澤恭子（ヴァイオリン）
第4回 1994	菅英三子（ソプラノ） 戸田弥生（ヴァイオリン）	原田展也（サクソフォン）	長木誠司（学術研究）
第5回 1995	★オーケストラ・アンサンブル金沢（室内オーケストラ） 大西順子（ジャズ・ピアノ）	村治佳織（ギター）	矢部達哉（ヴァイオリン）
第6回 1996	★白井光子（メゾ・ソプラノ） 椎代敦彦（作曲）	曽根麻矢子（チェンバロ）	二村英仁（ヴァイオリン）
第7回 1997	★大野和士（指揮） 樫本大進（ヴァイオリン）	児玉　桃（ピアノ）	浜田理恵（ソプラノ）
第8回 1998	伊左治直（作曲） 竹松　舞（ハープ）	木ノ脇道元（フルート） 永野英樹（ピアノ）	小沼純一（学術研究）
第9回 1999	梯　剛之（ピアノ） 西本智実（指揮）	斎藤充正（学術研究） 福井　敬（テノール）	佐藤美枝子（ソプラノ）
第10回 2000	井原秀人（バリトン） 鈴木大介（ギター）	岩野裕一（学術研究） 吉部賢一（オーボエ）	庄司紗矢香（ヴァイオリン）
第11回 2001	大井浩明（ピアノ）	村中大祐（指揮）	森　麻季（ソプラノ）
第12回 2002	岡田　将（ピアノ）	下野竜也（指揮）	藤村実穂子（メゾ・ソプラノ）
第13回 2003	神尾真由子（ヴァイオリン）	ジョン・健・ヌッツォ（テノール）	望月　京（作曲）
第14回 2004	川久保賜紀（ヴァイオリン）	中嶋彰子（ソプラノ）	松永貴志（ジャズ・ピアノ）
第15回 2005	佐藤俊介（ヴァイオリン）	中野翔太（ピアノ）	横坂　源（チェロ）
第16回 2006	亀井良信（クラリネット）	木下美穂子（ソプラノ）	田村　響（ピアノ）
第17回 2007	菊池洋子（ピアノ）	小菅　優（ピアノ）	小山裕優（フルート）
第18回 2008	大萩康司（ギター）	小出稚子（作曲）	米元響子（ヴァイオリン）
第19回 2009	日下紗矢子（ヴァイオリン）	篠崎和子（ハープ）	谷口朋美（メゾ・ソプラノ）
第20回 2010	荒絵理子（オーボエ） 宮田　大（チェロ）	河村尚子（ピアノ）	三浦文彰（ヴァイオリン）
第21回 2011	片岡リサ（箏）	南　紫音（ヴァイオリン）	山田和樹（指揮）
第22回 2012	金子三勇士（ピアノ）	塚越慎子（マリンバ）	萩原麻未（ピアノ）
第23回 2013	黒川　侑（ヴァイオリン）	西村　悟（テノール）	福士マリ子（ファゴット）
第24回 2014	小林美樹（ヴァイオリン）	成田達輝（ヴァイオリン）	挾間美帆（作曲・編曲・ピアノ）
第25回 2015	周防亮介（ヴァイオリン）	本條秀慈郎（三味線）	三浦一馬（バンドネオン）
第26回 2016	川瀬賢太郎（指揮）	萩田翔一（作曲）	山根一仁（ヴァイオリン）
第27回 2017	荒木奏美（オーボエ）	小林沙羅（ソプラノ）	反田恭平（ピアノ）

（★印は、第5回～7回の3回選考された「出光音楽大賞」受賞者です。）